

施策242

競技スポーツの推進

【主担当部局：地域連携部スポーツ推進局】

県民の皆さんとめざす姿

オリンピックなどの国際大会や全国規模の大会における本県出身選手の活躍をとおして、県民の皆さんが、夢、感動、勇気を得るとともに、郷土を愛する意識や一体感が醸成されています。

ジュニア競技者が発掘・育成され、三重生まれ、三重育ちのアスリートが国内外の大会で活躍しています。

平成27年度末での到達目標

県内のトップアスリートの強化、将来を担うジュニア競技者の育成や指導者の確保・養成に取り組むことにより、選手の育成・強化が進んでいます。

評価結果をふまえた施策の進展度と判断理由

| 進展度 * | 判断理由 |
|----------|------|
| | |

【*進展度：A（進んだ）、B（ある程度進んだ）、C（あまり進まなかった）、D（進まなかった）】

県民指標

| 目標項目 | 23年度 | 24年度 | 25年度 | 26年度 | | 27年度 |
|-------------------|------|------------|------------|------------|------------|------------|
| | 現状値 | 目標値 実績値 | 目標値 実績値 | 目標値 実績値 | 目標達成 状況 | 目標値 実績値 |
| 国民体育大会 の男女総合成績 | / | 30位台 | 20位台 | 20位台 | | 20位台 |
| | 32位 | 38位 | 41位 | | | / |

目標項目の説明と平成27年度目標値の考え方

| | |
|-------------|---|
| 目標項目の説明 | 国民体育大会における正式競技の参加得点（ブロック大会を含む）と冬季大会および本大会の競技得点の合計による都道府県ごとの男女総合順位 |
| 27年度目標値の考え方 | 平成25年度は目標が達成できなかったものの、平成33年の国民体育大会へ向けて、競技力の向上対策に取り組んでいく必要があることから、目標値を20位台に設定しました。 |

活動指標

| 基本事業 | 目標項目 | 23年度 | 24年度 | 25年度 | 26年度 | | 27年度 |
|----------------------------|----------|------|------------|------------|------------|------------|------------|
| | | 現状値 | 目標値 実績値 | 目標値 実績値 | 目標値 実績値 | 目標達成 状況 | 目標値 実績値 |
| 24201 競技力の向上（地域連携部スポーツ推進局） | 全国大会の入賞数 | / | 106件 | 111件 | 116件 | | 121件 |
| | | 101件 | 96件 | 102件 | | | / |

| 活動指標 | | 23年度 | 24年度 | 25年度 | 26年度 | | 27年度 |
|------|------|-----------------------------------|----------------|--------------|--------------|--------------|--------------|
| 基本事業 | 目標項目 | 現状値 | 目標値 実績値 | 目標値 実績値 | 目標値 実績値 | 目標達成 状況 | 目標値 実績値 |
| | | 24202 スポーツ施設の充実 (地域連携部スポーツ推進局) | 県営スポーツ施設年間利用者数 | | 804,856 人 | 820,953 人 | 854,000 人 |
| | | 802,313 人 | 847,468 人 | 884,223 人 | | | |

(単位：百万円)

| | 平成 23 年度 | 平成 24 年度 | 平成 25 年度 | 平成 26 年度 | 平成 27 年度 |
|--------|----------|----------|----------|----------|----------|
| 予算額等 | 738 | 729 | 941 | 1,044 | |
| 概算人件費 | | 63 | 120 | | |
| (配置人員) | | (7人) | (13人) | | |

平成 26 年度の取組概要

- ①第2回三重県競技力向上対策本部の開催(4月22日)及び競技力向上対策委員会、各専門委員会(ジュニア・少年選手強化専門委員会、成年選手強化専門委員会、企業等連絡調整専門委員会)の開催
- ②競技人口が少ない競技の小中学生を対象とした競技者の発掘・育成(6競技)
- ③ジュニア選手の意識醸成と計画的な育成・強化のため、チームみえジュニア指定(536名)、指導者・保護者研修プログラムの実施(7月6日：約800名)及びトップアスリート応援基金を活用して、国内外で活躍が期待される「チームみえスーパージュニア」を支援(8月12日11名を指定)
- ④中学校・高等学校運動部の強化指定による運動部活動の支援(5月12日指定：中学校4校4部、高等学校26校54部)
- ⑤中学校・高等学校運動部の指導者の資質向上のため、指導者研修会の開催(第1回：8月28日高等学校48名、中学校4名)及びみえスポーツアドバイザーの派遣(月16回派遣)
- ⑥指導の充実を図るため、全国トップアスリート等を特別コーチとして派遣(6競技)及び全国大会等で活躍する選手をスポーツ指導員として配置(1名)
- ⑦大学運動部、企業・クラブチームの強化指定(育成・結成指定を含む)による強化活動の支援(1部、8チーム)
- ⑧各競技団体の指導者や強化担当者、ジュニア選手の指導者を対象とした研修会の開催
- ⑨各競技団体と連携し、広報誌「輝くみえのアスリートNEWS」を作成し、県内で活躍しているアスリートを幅広く情報発信(7月：56,000部)
- ⑩「第76回国民体育大会三重県準備委員会」第3回総会、第4回常任委員会や総務企画専門委員会の開催
- ⑪平成33年第76回国民体育大会の会場地選定(正式競技：17市町27競技、公開競技：2市町2競技)、及び総合開・閉会式会場の会場地選定(県営総合競技場陸上競技場)
- ⑫各競技会において必要となる審判員や運営員等、競技役員の養成
- ⑬指定管理者制度を活用した県営スポーツ施設の効果的、効率的な管理運営及びネーミングライツ・パートナーの公募実施
- ⑭指定管理者等との連携及び必要な修繕等の計画的な実施による施設の安全性や利便性確保
- ⑮「三重県スポーツ施設整備計画」(平成25年3月策定)に基づく、県営施設や市町施設に対する対応の具体化

【中間進捗情報】

平成 26 年度の上半期の成果と残された課題

- ①ジュニア選手の発掘の取組を 6 競技実施することで、ジュニアクラブで継続的に活動する選手が現れています。また、全国大会等で活躍が期待できるジュニア選手を「チームみえジュニア」として指定することで、競技団体や指導者がジュニア育成の重要性を認識することにつながりました。さらに、将来国内外で活躍できるようなトップジュニア選手を「チームみえスーパージュニア」として指定し遠征・合宿等の強化活動を支援しています。今後は、目前に控えた平成 30 年度全国高校総合体育大会に向けたジュニア選手及び少年選手の育成・強化を図る必要があります。
- ②新たに中学校運動部を強化指定するとともに、高等学校運動部の強化指定を拡充し、遠征・合宿等の強化活動の支援を進めるなどの取組を行ったことで、本年度のインターハイでの入賞件数を増加させることができました。今後は、さらに強化指定運動部の拡充を行い、運動部活動の充実を図る必要があります。
- ③成年種目の強化のため、企業・クラブチームを強化指定や新たなチームを結成しましたが、まだまだ成年選手が活動できるチームが少ない状況です。今後は、本県にトップアスリートが定着できるよう受け皿となる企業の開拓や、新たなチーム結成に向けた取組を進めていく必要があります。
- ④優れた指導実績をもつ指導者を特別コーチとして派遣するとともに、全国・国際大会で活躍するスポーツ指導員を配置することで競技団体の活性化が図られました。しかしながら、少年、成年選手の育成・強化に必要な優秀な指導者が少ない状況があることから、指導者の養成・確保を進める必要があります。
- ⑤平成 33 年第 76 回国民体育大会の開催に向けて、正式競技については、第 3 次選定において 4 競技が選定され、公開競技については、第 1 次選定において 2 競技が選定されました。また、総合開・閉会式会場については、伊勢市の県営総合競技場陸上競技場となりました。今後も残された未選定競技の会場地を決めていく必要があります。
- ⑥各競技において審判員や運営員、補助員など多くの人員が必要になることから、平成 26 年度から、審判員や運営員等、競技役員養成の取組を進めていますが、下半期に向けても引き続き養成を進めていく必要があります。
- ⑦鈴鹿スポーツガーデン水泳場の水質管理機器の維持補修や、総合競技場における競技備品の導入などを行いました。年度当初に予定した維持修繕について、早期の実施を図っていく必要があります。また、ネーミングライツについて、パートナー及び施設の愛称が決まりました。今後は、愛称の普及・定着を進めていく必要があります。
- ⑧県営総合競技場陸上競技場の大規模改修に着手し、測量、補助競技場の設計等を実施しました。引き続き、関係機関・団体との連携を図り、早期完成に努めるとともに、多様な財源確保にも配慮していく必要があります。また、市町施設に対する対応の具体化を図っていく必要があります。

平成 26 年度の下半期（翌年度）に向けた改善のポイントと取組方向

〈下半期〉

- ①本年度の国民体育大会の結果を分析し、次年度の国民体育大会での成績向上のため、競技力対策委員会や専門委員会での意見を踏まえ、次年度の強化対策に反映させていきます。
- ②ジュニア選手及び高校生アスリートの育成・強化を図るため、競技団体の強化活動について実態を把握し、成果の検証を行っていきます。
- ③本県出身等のトップアスリートが本県に定着できるよう、受け皿となる企業の開拓や、新たなチー

ム結成に向けた取組を進めていきます。

- ④会場地市町が未選定となっている正式競技 11 競技、及び公開競技 3 競技について、個別に課題を整理し、市町、競技団体とその対応策を検討し、年度内に選定できるよう取組を進めます。
- ⑤競技役員の養成については、開催年度までに必要な人員が確保できるよう、下半期も引き続き、中央競技団体主催の講習会等への派遣や県内講習会の開催を通じて、役員等の養成に取り組みます。
- ⑥平成 33 年第 76 回国民体育大会の開催 5 年前（平成 28 年度）には、文部科学省、日本体育協会あて、開催申請を行います。これに併せて、大会開催の目標や取組の方向性を盛り込んだ「開催基本構想」を策定し、これを提出することとしています。そのため、今年度は、他県の事例研究など基礎的な調査業務を行い、策定作業に着手します。
- ⑦下半期においても、快適な利用環境を提供できるよう指定管理者と連携し、サービスの向上に努めます。あわせて、施設の維持管理について、残る修繕計画の早期実施に取り組み、施設機能の確保を図ります。また、ネーミングライツを導入した施設の愛称の普及・定着に努めます。
- ⑧総合競技場陸上競技場の大規模改修の計画的な推進に努めるとともに、事業費の財源確保に努めます。また、市町施設に対する県関与の制度化に取り組みます。

〈翌年度〉

- ①競技力向上対策委員会等における意見を参考にしながら、強化合宿、遠征等強化活動の支援など、競技団体にとって、より効果的な強化対策を図ります。
- ②競技団体と連携し、ジュニア選手の発掘・育成の取組を推進していきます。また、少年選手の育成強化を図るため、中学校・高等学校運動部の強化指定の拡充を図るとともに、中高の連携を図りながら、競技種目別の育成・強化の取組を行います。
- ③ジュニア選手の育成・強化を図るため、「チームみえジュニア」として指定し、選手や指導者・保護者に研修会を開催するとともに、トップアスリート応援募金を活用して「チームみえスーパージュニア」の指定選手の支援を進めていきます。
- ④成年選手の育成・強化を図るため、大学運動部や企業・クラブチームの強化指定や今後活躍が期待できるチームの育成指定を推進するとともに、本県にトップアスリートが定着できるような就職支援の取組に着手します。また、新たなチーム結成に向けた取組を進めていきます。
- ⑤指導者の養成・確保を図るため、研修会等を開催して指導者の資質向上を進めるとともに、「特別コーチ派遣事業」や「スポーツ指導員配置事業」など、県内外の優秀な指導者の派遣・登用を進めていきます。
- ⑥平成 33 年第 76 回国民体育大会の開催 5 年前（平成 28 年度）の開催申請に向けて、開催申請に必要な協議や手続きを進めるとともに、申請に併せて提出する「開催基本構想」を策定します。
- ⑦国体の愛称、スローガン、マスコットキャラクターの募集や「輸送・交通」、「宿泊・衛生」、「式典」、「警備・消防」といった具体の取組項目における基本方針等を決定するなど、準備を進めていきます。
- ⑧平成 33 年第 76 回国民体育大会の正規競技については、中央競技団体による会場地施設の視察に向けて、市町や競技団体と連携し、受入準備を進めます。
- ⑨競技役員の養成については、開催年度までに必要な人員が確保できるよう、引き続き、役員等の養成に取り組みます。
- ⑩所管するスポーツ施設において、快適な利用環境を提供できるよう指定管理者と連携し、より一層のサービス向上に努めます。また、ネーミングライツを導入した施設の愛称の普及・定着に努めます。

- ⑪施設・設備の安全性、利便性を確保するための必要な改修については、緊急性・必要性の観点から計画的に実施していきます。
- ⑫総合競技場陸上競技場の大規模改修については、引き続き、関係機関・団体との調整を行いながら、計画的に実施していきます。

